

立命館

災害復興

支援室

瓦版

かわらばん

【第21号】 2014年1月17日発行

12月20日に
福島県と立命館が連携・協力
に関する協定を締結し、
「ふくしまとはじめよう。
京都・立命館」を開催

立命館では、教職員や学生・生徒が個々に福島での復興支援活動に取り組むとともに、災害復興支援室としても福島での取り組みについての検討を行なってきました。このなかで、2013年8月、福島県副知事が滋賀県訪問とあわせて、びわこ・くさつキャンパスにも訪問されました。その際、災害復興支援室ならびに福島県で復興支援に取り組んでいる教職員・学生との懇談の場が持たれ、大学・教育研究機関として今できることは何か、関西の若者に対して福島県への関心喚起の面で何ができるかなどの意見交換を行いました。

この懇談をきっかけに、現在福島県が取り組む「ふくしまからはじめよう。」をスローガンにした復興への情報発信プロジェクトを関西から促進することをはじめ、福島県と立命館が連携・協力を進めることを目的に、協定の締結が福島県から提起され、12月20日に協定を締結することになりました。

協定締結に際しては、立命館大学衣笠キャンパスで協定締結式を行うとともに、福島県の今とこれからを関西から発信していく第一歩として、「ふくしまとはじめよう。京都・立命館」をテーマに協定締結記念フォーラムをはじめ、福島に関するさまざまな企画が実施されました。



【衣笠・創思館カンファレンスルーム】
■協定締結記念式・記念フォーラムの開催
15:00～19:00、記念フォーラムとして、リレートークとパネルディスカッションを開催しました。フォーラムの中では、協定書の取り交わしをはじめとした協定締結式も実施されました。

＜リレートーク・協定締結式の様子＞
「ふくしまとのこれまで」をテーマに、立命館大学、福島大学、明治大学の学生および立命館宇治高等学校の生徒らによる福島での活動報告が行われました。

協定締結式では、内堀福島県副知事と川口総長が「連携協力に関する協定書」の取り交わしを行い、絵ろうそくへの点灯セレモニーが行なわれました。また、来賓の京山田京都府危機管理監、桑原福島県校友会長からご挨拶もいただきました。

＜フォーラム・パネルディスカッション＞
「ふくしまとのこれから」をテーマに、ふくしまと立命館の“これから”やふくしまと地域の“これから”など、福島未来について、内堀福島県副知事や川口総長、福島テレビの浜中順子アナウンサー、山田京都府危機管理監、サトウタツヤ文学部教授らにより、活発な意見交換が行われました。

最後には、ロックバンド・猪苗代湖ズのベースを担当する渡辺俊美さんが福島にまつわる曲を熱唱し、会場を盛り上げました。



中央広場では、福島県会津地域で毎年開催される「会津絵ろうそくまつり」のチームによる絵ろうそく点灯を実施し、辺りには幻想的な雰囲気が漂いました。絵ろうそくには文学部サトウゼミ学生の協力で、立命館学生や来場者を対象に募った福島へのメッセージが風除けに書き込まれました。



【西側広場】
■キビタングッズの販売＆
“マミーすいとん”のふるまい

福島からやってきたキッチンカー・キビタン号でのご当地名物カレーやきそばや塩シュクリーム、キビタングッズの販売のほか、福島県楮葉町の郷土料理として知られる“マミーすいとん”400食が立命館大学学生ボランティア団体のそよかぜ届け隊によって来場者にふるまわれました。



■フィリピン台風被害への募金受付
昨年11月にフィリピンで発生したスーパー台風 Haiyan (30号)の被害への寄付を募り、12,215円の募金が集まりました。
【諒友館地下食堂 ROSSO】
■映画上映

12/18, 19, 20の3日間、震災から半年後の福島県内6ヶ所で開かれた音楽イベント「LIVE 福島 風とロック SUPPER 野馬追」と参加した県民のその後を描いた映画「あの日～福島は生きている～」を上映しました。

【生協食堂：衣笠・BKC】
■生協「福島郷土食フェア」の開催

12/16～20衣笠、BKCの生協食堂において、福島県の郷土食の喜多方ラーメン、会津ソースカツ丼、こづゆの3メニューが提供され人気を博し、期間中に計2,407食が好評のうちに販売されました。

【後方支援スタッフ派遣 報告】
第21・22便 大船渡市で活動

災害復興支援室が企画・運行するボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣プロジェクト」第21便・第22便が岩手県大船渡市へ派遣されました。

■第21便
10/10(木)から10/15(火)学生10名職員2名が参加し、白川静東洋文字文化研究所が開催する大船渡漢字探検隊のサポートや仮設住宅でのサロン活動を行いました。



▲漢字かるたに挑戦する子どもたち

■第22便
12/20(金)から12/25(水)学生13名職員1名が参加し、昨年度に続き東日本大震災で被災した大船渡市の地域の方々が主体となり開催するクリスマスイベントに、サンタの扮装でプレゼントを配るボランティアとしてサポートを行った他、子ども会、コミュニティセンター、保育園のクリスマス会のサポートを行いました。



▲学生はサンタ姿で町を歩きました

【報告】立命館宇治高等学校
11/2-4 福島ボランティア・
フィールドワークツアーの実施

11/2(土)～4(月)にかけて、立命館宇治高等学校の生徒8名が、福島県南相馬市において、農地復元のための瓦礫撤去作業などのボランティア活動や、福島県立川俣高等学校の生徒との交流を行いました。

参加した学生からは、現地に行くことで自分の目や耳でしっかり現状を確認し、とても貴重な経験をした、また機会があれば東北に足を運びたいと感想が寄せられていました。



▲現地高校生との交流の様子

【報告】APU
12/10 フィリピン台風30号
学生がチャリティコンサートを
企画・開催

フィリピンで大きな被害をもたらしたスーパー台風 Haiyan の被災者支援を目的に、APU在籍のフィリピン学生による支援プロジェクト「バヤニハン・ハイヤン・エイド」が被災者支援チャリティコンサート『BAND AID FOR THE PHILIPPINES: BAND TOGETHER, AID EACH OTHER』を12/10(木)APU食堂で開催しました。コンサートでは、各国出身の学生によるダンスや歌のパフォーマンスが披露された他、会場内ではグッズ販売も行われました。

なお、募金活動は2014年初頭まで実施予定で、集められた募金とチャリティ収益金は、台風被害の住宅再建支援に取り組むNGO“Habitat for Humanity, Philippines”への寄付を予定しています。



▲チャリティコンサートの様子

【報告】12/13-14 大学間連携
災害ボランティアネットワーク
シンポジウムで事例発表

12/13(金)・14(土)東北学院大学土樋キャンパスにて、大学間連携災害ボランティアステーション主催シンポジウム「震災復興・地域再生と学生ボランティアの役割」が開催され、12/14に開催された学生フォーラムのパネルディスカッションに、理工学部4回生の佐野匠さんが報告者として登壇し、台風18号豪雨被害に関する災害復旧ボランティアの取組みについて報告を行いました。また、同日に実施された復興支援に関する各大学の取り組みを紹介するポスターセッション・パネル展示コーナーにおいて、立命館の取組みについてパネルの展示を行いました。



▲発表後のパネルディスカッションの様子

これからの主な取り組み

02/1(土)15:30～16:30パネルディスカッション「大災害時に私たちができること」
姫路市と立命館大学との連携協力に関する協定事業として開催。パネラーとして、立命館共通教育推進機構の桑名恵准教授と本学学生2名が参加します。
02/18(土)応用人間科学研究科「震災シンポジウム」開催
応用人間科学研究科が取り組む「東日本・家族応援プロジェクト」の一環として、昨年度に引き続き開催。東日本大震災から3年目を迎えようとしている今、これまでの支援を振り返り、今後の支援のあり方を探ります。

＜それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。＞

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

編集後記

この間ずいぶんお休みをしてしまい、盛り沢山の瓦版になりましたが、最後までお読みいただけましたでしょうか？被災地との連携もさらに増え、災害復興支援室の活動もますます広がり、支援室ではこれからも継続した支援に取り組んでまいります。今後ともご協力のほど、宜しくお願いいたします。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第21号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室
Tel 075-813-8130 (総合企画課内)
311fukko@st.ritsumei.ac.jp
http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/

